様式1

令和4年度　学校評価表

学校教育目標	自ら学び，心豊かに，たくましく未来を切り拓く生徒の育成

a　ミッション	中学校区で取り組む自己有用感を育む教育の推進	a　ビジョン	確かな学力を身に付け，自他を尊重し，保護者・地域から信頼される学校

尾道市立　久保中学校

評価計画						自己評価							学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値		12月 g達成値 1年	2年	平均	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
資質・能力の育成	授業改善を進め，生徒の基礎学力の定着と，「わかる」「できた」を感じる授業づくりを進める	基礎学力の定着を図る	・授業のめあてに対する「自分の表現（書く・話す）」で振り返りをする時間の確保。 ・eライブラリの問題を活用し，久保検定として出題する。	久保検定（国社数理英）：６０％以上の生徒	70%	国語	88.9%	70.3%	75.7	108.1%	A	・できる問題が増えたことで自己肯定感の向上につながっている。目標値は達成できているが教科によっては，目標値を下回っているところがある。 ・３０％以下の生徒に補充学習を行った後，定期試験を行ったので３０％以下の生徒が減った。 ・国語は読み物教材のときに適切な問題がない。 ・授業の進捗状況と合わない問題があった（英・数・社）ため，問題を組み合わせて作成するなど問題作成に時間がかかるときがあった。	○			・久保検定での良い結果が，生徒の自己肯定感の向上にもつながっている。 ・久保検定３０％以下の生徒に対して補充学習行うなど，基礎学習の定着を図ることができている。	・授業の進捗状況と合わない問題があるため，久保検定としてeライブラリの問題内容が適切であるか再検討する。 ・補充学習の計画を試験の１週間前に生徒に周知できるようにする。
						社会	70.6%	69.8%									
						数学	70.4%	83.3%									
						理科	73.4%	63.0%									
						英語	86.7%	77.3%									
						全体	78.0%	73.4%									
				久保検定（国社数理英）：３０％以下の生徒	10%	国語	3.4%	11.7%	7	103.3%	A						
						社会	7.4%	5.7%									
						数学	11.6%	4.3%									
						理科	5.6%	8.0%									
						英語	3.1%	9.6%									
						全体	6.2%	7.9%									
		表現力の育成	自分の考えや意見を伝え合う対話的学びの場の設定。	教職員アンケート：「生徒に，自分の考えや意見を相手に伝えるように指導している」割合 生徒アンケート：「授業では，自分の考えや意見を，相手に伝えるようとしている」割合	教師90% 生徒70%		１年８５．７% ２年７０．４% ３年９３．０% 全体８３．２%		教師100% 生徒83.3%	教師111.1% 生徒119.0%	A	・学校全体で取り組んだことで，生徒が対話的な場面に慣れて，スムーズに行えるようになった。 ・教職員の表現力向上への意識が高まった。 ・対話の機会を増やすことはできたが，対話の質を上げることが難しかった。 →今後は「自分の考えや意見を，相手に伝えることができる」を検討。 ・生徒同士の対話を行っているが，意見が深まっているか分からない。	○			・研究主任がモデルを提示したり，外部講師を招聘した校内研修を計画し，全職員が一回研究授業を行うことで，教職員の表現力向上への意識が高まり，学校全体の取組として定着している。	・年度始めの校内研修で前年度から勤務している教員の研究授業をモデル授業として行い，教員へ研究の方法を周知させる。 ・対話の質を向上させるために，アンケートの質問内容を見直す。 ・表現力が向上しているか見とる方法をアンケート以外に検討する。
生徒指導の充実	自他を認め，学校，地域に誇りを持つ生徒を育成する	生徒の自己有用感を向上する	授業，生徒会活動，部活動において生徒主体の活動を意図的に仕組み，活動に対して自己有用感を高める評価をする。	生徒アンケート「自分は周りの人の役に立っていると思う。」割合	75%	7月	１年65.9% ２年55.9% ３年63.4%		62%	82.7%	B	・7月から比較して１年と３年の肯定的な割合は上がったものの，全体では目標に達していない。 ・役割を堅実に行える生徒が多いが，肯定的にとらえていない生徒もいる。 ・２年は前向きに行事に取り組む姿勢が見られるが，不登校傾向も多く肯定的な回答をする生徒が少ない。 ・３年は尾道市の音楽祭への参加や，教育総合発表会での取組みの影響で肯定的な割合が上がった。	○			・コロナ禍の中行事を工夫し，帰りのＨＲでのトーキングシャワーなど，生徒の成長を促す実践を多く考え，取組を進めた結果，自己有用感の向上につながった。	日常の委員会活動や係活動において，新しい取組みに挑戦させて教員が肯定的な評価をする。 行事ごとに自分の役割を振り返らせ掲示して「見える化」することで，行事までの取組の中で必要なことに貢献した実感を持たせる。 アセスの分析結果をもとにした面談を行い，個別の課題に沿った支援を行う。
						１２月	１年73.8% ２年52.3% ３年79.1%		68%	90.7%							
		学校生活の充実感を向上する	教育相談体制を確立し，不登校及び，不登校傾向の生徒に対しての支援を行う	生徒アンケート「学校へ行くのが楽しい。」割合	80%	7月	１年88.7% ２年79.1% ３年65.9%		78%	97%	B	・１年は目標値を達成しているが，３年は目標に届かなかったもの７月自より肯定的な回答の割合が上がった。 ・教育総合発表会や久保中学区の灯り祭りなどの実施により肯定的な回答が上がった。	○			・色々な制約がある中，各行事を通して肯定的な回答が上がっているのは，生徒が行事を行ううえでの明確な目標を持ち，主体的に友だちと協働しながら取組を進めた結果だと考える。	
						１２月	１年83.4% ２年77.3% ３年79.0%		79%	99%							

久保小学校とともに

ともに学ぶ学校づくり	小中学校が同じ場所で学ぶ良さを生かす	自分から愛拶ができる生徒を育成する	生徒会を中心に活気ある愛拶が交わされる取組みを行う	教師アンケート「本校の生徒は自分から愛拶をしている」割合 生徒アンケート「自分から愛拶をしている」割合	教師85% 生徒85%	7月	１年90.9% ２年71.5% ３年82.9%	教師90%	教師90% 生徒81%	教師105.9% 生徒95.3%	B	・１年は積極的に愛拶をする傾向にあるが，７月に比べて肯定的な回答は下がっている。愛拶グランプリを生徒まかせにせず教員全体で支援する雰囲気作りが必要。	○			・中学生の挨拶が小学生の良い手本となっている。また，愛拶グランプリ等，取組を吟味し進めた結果が肯定的な評価につながっている。今後は，校外においても地域の人に出会ったら，積極的に挨拶を行うことを期待する。	愛拶グランプリに代わる愛拶の定着を目指した活動を生徒会から提案し久保中学区の生徒会と児童会交流を積極的に行い，各校の愛拶運動を活性化させる。 教員から積極的な愛拶を行い，自然にあいさつが交わされる雰囲気をつくる。
						１２月	１年95.2% ２年70.2% ３年81.4%	教師80%	教師80% 生徒84%	教師94.1% 生徒98.8%							

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。